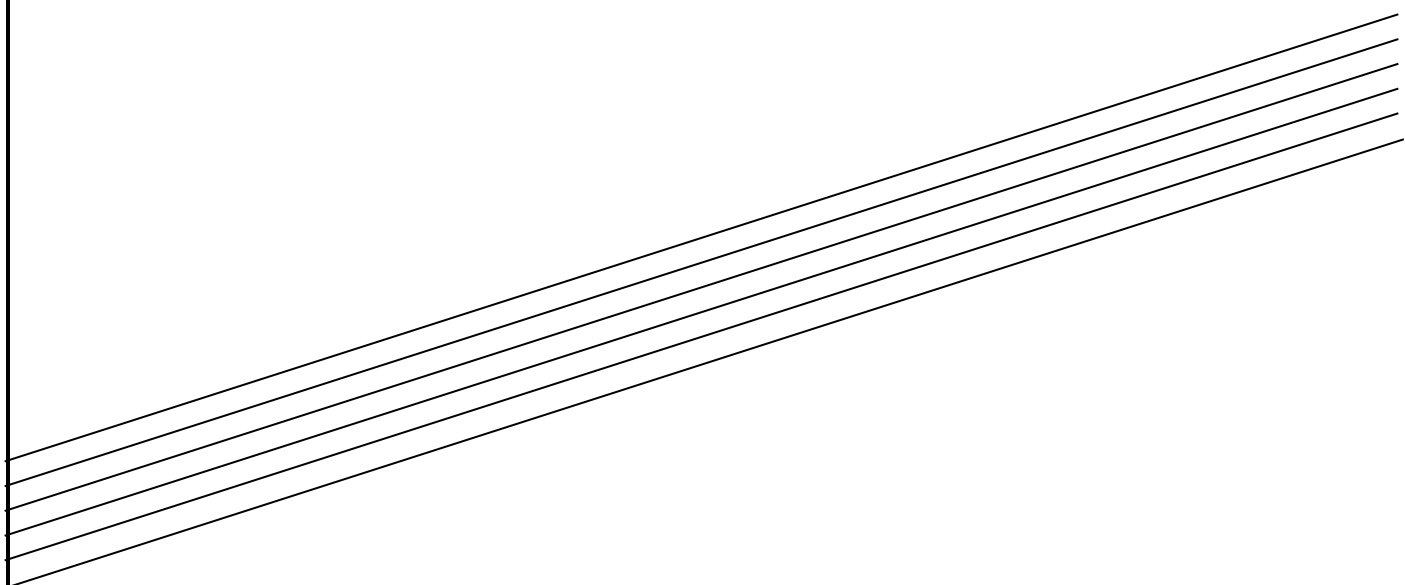


稲永準動詞講義 の実況中継 (下)

講師 稲永亮(臨海セミナー講師)

分詞～分詞構文



第4講 分詞の理解

● 準動詞の講義、最終巻に突入です！

さて、不定詞、動名詞と終わり、分詞の講義になります。分詞は別に難しいことはありません。次の分詞構文もです。難しくはない、ないですが、文法的には非常に重要なものです。だから、必ず理解するようにしてください。ではいつもの板書からいきましょう。

準動詞のはたらき

文	名詞	形容詞	副詞	形
不定詞	○	○	○	to V ~
動名詞	○	—	—	~ing
分詞	—	○	—	~ing / p.p.
分詞構文	—	—	○	~ing / p.p.

今回は下段。分詞は文を崩して形容詞のカタマリを、そして最後の分詞構文は副詞のカタマリを作りますよ。じゃ、行きましょうか。

さっきも言ったように分詞は非常に簡単です。これを訳してみましよう。

Barking dogs never bites.

The stolen book was very funny.

わかるでしょ？単語がわからないとかいうのは分詞とか以前よ。まず上から、「吠えている犬は決して噛まない。」。要はすぐ吠えるような犬は結構弱虫で、実際に噛みついてくるようなことは滅多にないってこと。転じて、やたらデカイことを言うような人は結構気が小さいってことにも使います。人の悪口を陰では過激に言うくせに、本人には言えない人っているでしょ。そういうことです。下は「盗まれた本はとっても面白かった。」ですね。簡単にまとめると、名詞を修飾する(形容詞)の~ing は「~して

いる」、p.p.は「～された」って訳せばいい。まあ、これで8割はいけちゃうんですね。文法問題もこれで解けちゃいます。ところで、p.p.って大丈夫？ past participle (過ぎたる分詞)、つまり過去分詞のことです。

わずか1ページにして8割方の説明を終えてしまったといえる分詞だけでも、こいつは文法理解において非常に重要です。より詳しい説明をします。

● はじめまして？いいえ、お久しぶり、です。分詞の叙述用法！

分詞に関して、皆さんは初めて出会ったとお思いでしょう。だけど、実は、君らは分詞にはとっくのとうに親しんでいるんですよ。分詞は形容詞のはたらきをする準動詞でしたよね。とりあえず不定詞形容詞用法のところでした形容詞の板書をもう一回見せませうね。

形容詞…(例)pretty, cool, beautiful

名詞を説明する。説明の仕方は2パターンある。

限定用法（名詞にかかる形容詞のこと）…名詞を「限定」することで「説明」する。

a red apple 「赤い」リンゴ

他のリンゴが除外される(=リンゴが限定される)。

※ 1語の形容詞は名詞の前から、2語以上の形容詞は名詞の後ろから修飾する。

叙述用法(Cの形容詞のこと)…名詞を補語の位置で描写(叙述)して「説明」する。

The apple was red. そのリンゴは赤かった。

S V C (=リンゴの描写)

形容詞は名詞を説明するんだけど、説明の仕方は2パターンありました。それが限定用法と叙述用法だった。では、さっきの例文を見てください。じゃあさっきの例文をもう一度見てみて。

Barking dogs never bites.

The **stolen** book was very funny.

これは、限定用法、叙述用法、どちらですか。

生徒「限定用法」

そうだよ。犬は犬でも、「吠えている」犬、本は本でも「とられちゃった」本に限定しているわけね。共に1語だから名詞の前から修飾と。さて、しつこく繰り返すと、分詞は形容詞用法の準動詞ですから、当然こいつらにも「叙述用法」、つまりCになる用法があるわけです。じゃあ、この文の **barking** と **stolen** を使って、書いてみましょう。SVC が書きやすいですね。動詞は SVC の構文をとる代表選手、be 動詞先生でいきますよ。

The dog is **Barking**.

The book was **stolen**.

あれ、これ、どこかで見てませんか？…ねえ、どうですか？

生徒「現在進行形と受け身？」

そう！その通りです。進行形と受動態なんです。皆さんは時制と受動態ではこう習ってたわけです。

The dog is barking.
 s v

The book was stolen.
 s v

こんな風に be+ing は進行形、be+p.p.は受動態として一つの動詞だという考え方です。これでももちろん意味は取れますし、なにより文型がシンプルになって、見やすい。これでも正解ですが、正確にはこうなんです。

The dog is barking.
 s v c

The book was stolen.
 s v c

この中で動詞なのはあくまで **be** 動詞だけで、後ろの分詞の叙述用法が形容詞として補語になっているわけ。第2文型の **be** 動詞って「～な状態だ(～である)」って意味ですね。**She is pretty.**は「彼女はかわいい(状態だ)」。それと全く同じで、**barking** が「走っている」、**stolen** が「盗まれた」という形容詞が補語なので、**is barking** で「吠えている状態です」、**is stolen** で「盗まれた状態です」って意味になる。だから進行形、受動態と教えるんです。文型をとるときはどちらでもいいけど、この考え方は後で分詞構文のところでも使うので、必ず覚えといてね。まとめます。

動詞が **be** で、補語が現在分詞だった場合を進行形、過去分詞だった場合を受動態と呼んでいる！正確には動詞は **be** 動詞だけ！

さらに以下のことも言えます。これは文法問題で役に立ちますよ。

～ing や p.p.は単独では絶対に動詞(V)にならない！

～ing の可能性は中巻で扱った「動名詞」か今回やる「分詞」「分詞構文」の3つのどれか、そして p.p.は「分詞」か「分詞構文」しかありません。必ずその中のどれかです。言い換えれば～ing と p.p.は準動詞なんだね。準動詞っていうのはそもそも動詞を崩したものでしょ。元々動詞を動詞じゃないように加工したものなんだから、絶対に **V** にはなりません。このルールはすごく使えるよ。だって、これを見て。

I () a video when you knocked.
(a) watching (b) was watching (c) is watching (d) watch

こんな問題みたいに、動詞がない文の場合まず(a)の **watching** は使えない。だって、**watching** は単独だから絶対動詞じゃないから。答えは(b)でしょ。**was watching** は **was** が動詞だから大丈夫です。ちなみに、㊦㊧の話だけれども、分詞の場合、修飾している名詞が㊦です。分詞に限っては元の文の形は意識しなくて大丈夫です。

● be ~ing でも進行形じゃない？ be p.p.でも受動態じゃない？

さて、せっかく進行形と受動態の真実を理解したのに、そのタイトルはなんだよとイライラを禁じえませんか。今まとめたところなんですが、実は be ~ing だから、進行形、be p.p.だから受動態とは限らないんです。これを見てみてください。

The book is interesting.

Time is gone.

これ、「その本は面白がらせているところだ。」とか「時間は行かれた。」とか訳してしまった人はダメですよ。イカレてるのは時間ではなく、あなたです(笑)。この文の訳はそれぞれ、「その本は面白い。」「時間は過ぎた。」です。なんでそんな意味になるのでしょうか。実はこれは、さっき言った分詞の~ing は「~している」、p.p.は「~された」という訳し方が完璧ではないということを示しています。正確なところまでいきましょう。

分詞の意味

	Ving	Vp.p.
自動詞	進行 (している)	完了 (した)
他動詞	進行/能動 (している)	受動 (された) / 完了 (した)

p.p.の理解の方が重要です。まず、大前提から行きますよ。受動態が作れる文型って、何文型ですか？

生徒「3・4・5です。」

そう、第3文型、第4文型、第5文型。目的語を主語にするんだから、目的語をとる他動詞が作る文型じゃなければいけないわけですよ。Giveみたいに「~を与える」という他動詞なら、「~は与えられた」という過去分詞にできるわけです。じゃあ、自動詞が過去分詞になったらどうなるの？目的語とらないから「~はされた」とって受動になんかなるわけないよね。実は自動詞が過去分詞をつくると「~した」という完了の意味になるんです。さて、それでは質問。過去分詞って、受動態以外でも見か

けますよね。思い出してください。それはどこ？

生徒「……………」

そういわれると意外と詰まりますよね。でも難しいことを言ってるわけじゃあない。簡単です。今の板書をよく見てごらん。

生徒「あっ現在完了！」

そう、正確には完了形ね。完了形も **have p.p.**とか **had p.p.**とか、過去分詞が使われています。過去分詞には完了の意味があるからです。自動詞の分詞は完了を示します。だから **Time is gone.**—**Time is passed.** でもいいけど—の意味は「時間が過ぎ去った」です。

ここからは雑談ですけど、昔は受動態も完了形も **is + p.p.** で表してたんです。で、その過去分詞の元の動詞が自動詞の場合は完了形、他動詞の場合は、文脈に応じて受動態か完了形かを見分けてました。でもやっぱりそれは面倒くさいので、完了形なら **have p.p.** にしようという風にしたんです。「完了(p.p.)した状態を持って(have)いる」という意味ですね。まあ、文型をとるときにいちいちそんなことを考えても無意味なので、完了形に関しては **have p.p.** で動詞だと思っていてください。今回の例文も **Time has gone.**とか **Time has passed.** っていうのが普通なんだけど、こういう古い言い方をすることもあるので、わかっているといいですね。下線部和訳によく出ます。「時はイカレル」と書いている受験生を見て、教授は手を叩いて喜んでいるわけだね(笑)。

それで、～ing の話なんですけど、これは「～している」で訳しているとなかなか気づかないところなんですけど、過去分詞の完了の意味に対して、「進行」があるように、受動に対して、「能動」の意味があります。今回の **interesuting** は、**interest** 「興味を持たせる」という動詞から作られた分詞なんですけど、これは「興味を持たせている」という「進行」の意味ではなく、「興味を持たせる」という意味をそのままに、ただ形容詞的にしただけです。それを強いて言うと、「能動」というわけです。過去分詞を使うと「受動」になってしまうからね。

ちなみに「現在分詞」「過去分詞」という名前は何の意味もないんです。現在も過去も関係ありません。だって、過去進行形でも **ing** 使うし、受動態にも **p.p.** を使うけど、現在ことだってあるでしょ。時間(時制)を決

めるのは動詞であって、さっき言ったように、ing も p.p.も絶対動詞にはならないんだっただね。だから時間と分詞は無関係です。昔の英文法学者がよく考えずにつけちゃったんです。それから動名詞を「現在分詞の名詞用法」っていう人もいるけど、それも間違い。分詞は現在分詞も過去分詞も形容詞用法です。動名詞は別物です。

● させる？させられた？感情動詞から作る分詞はややこしい！

さて、あとはそんなに難しくないかな。分詞を仕上げていきましょう。といっても、正確には分詞の話ではないんだけどね。分詞の材料の動詞の話です。実は英語には「～する」という動詞ではなく、「～させる」という訳をする動詞もあるんです。日本語なら助動詞の「せる、させる」を付けるだけなんだけどね。英語の動詞は元から「せる、させる」内蔵のものがあるんです。以下に挙げてみましょう。

感情動詞一覧				
<u>わくわく系</u>	<u>魅力系</u>	<u>いろいろ系</u>	<u>びっくり・恐怖系</u>	<u>疲れた・退屈系</u>
excite	charm	irritate	surprise	exhaust
please	attract	annoy	alarm	tire
amuse	fascinate	bother	astonish	bore
delight	move		horrify	
			terrify	
<u>がっかり系</u>	<u>傷つき系</u>	<u>励まし系</u>	frighten	<u>困った系</u>
disappoint	injure	encourage	shock	confuse
discourage	wound	convince	threaten	embarrass
depress	hurt		surprise	bewilder
			amaze	trouble

たとえば excite は「(自分が)興奮する」という意味ではなく、「(相手)を興奮させる」という意味です。さっきやったね。じゃあ、問題です。なんとかこの動詞を使って「(自分が)興奮する」という意味にしてください。どうする？

生徒「え？？…I am exciting.ですか？」

いやいや、だってそれだと、「私は(誰かを)興奮させている」って意味じゃないですか。興奮させてるって…いったい何してるんですか(笑)？…と

というのが今回のテーマです(笑)。

日本語で考えましょう。たとえば日本語に「持たせる」しかないとしますよ。で、A くんが君に鞆を持たせたとしましょう。それを「持たせる」という動詞をなんとかして、君視点で言っごらん。「私は鞆を持った。」と言えればいいけど、それは「持たせた」を使ってないからルール違反です。でも「私は鞆を持たせた。」だと A くんじゃなくて君が持たせたことになるよね。どうする？

生徒「私は鞆を持たされた。」

そう！そういうことです。つまり使役＋受身で表すんです。「持たされた」と言えば「持たせる」という動詞を使って、自分が持ったことになります。つまりどういうことか。今板書したこれらの「～させる」動詞は、「(自分が)する」という場合は過去分詞(受動態)にするということです。

「私はその試合で興奮した。」

○I was excited in the game.

×I was exciting in the game.

これはとりあえず動詞のメンツさえ押さえておけば文法問題も解けます。現在分詞か過去分詞かというところまで選択肢が切れて、「あっそうか、現在分詞と思いきや、これは過去分詞のやつだ。」とね。中巻でやった、クラスメイト暗記法でいきましょう。

● 分詞の慣用表現は2つだけ

分詞の慣用表現はものすごく簡単です。これ2つ押さえておけばよし。

分詞の慣用表現

make oneself heard

「自分の声が聞かれた状態にする」

make oneself understood

「自分の意思を理解させる」

これで文法問題も即答です。この表現の意味はわかりますか。これは第5文型で、SCOC の C の部分に過去分詞が入った文ですね。「自分自身(oneself)が聞かれた[理解された](heard[understood])状態を作る(make)する。」

ということです。自分の声が聞かれた状態にするっていうことはわかりますね。例えば「大声で話して自分の声が聞こえるようにする」というのもそうですし、「自分の言い分を聞いてもらおう」というのもそうです。要は「自分の話が聞いてもらえなくなりそうな状況で」使う表現です。じゃあ、**make oneself understood**.は？…そう、「自分の話が理解してもらえなさそうな状況で」、なんとかして「自分の意思を理解してもらおう」ということですね。ただ、この2つの表現は適切な日本語がありません。だから訳になっていないような訳ですが、それは言語が違う以上必ず起こることです。英語と日本語が一对一対応で変換できるというのは嘘ですからね。

さて、それでは例文をいくつか見て、分詞を終わりにします。これで分詞は OK です。

- (1) **Barking** dogs never bites.
- (2) A **stolen** book was very funny.
- (3) The girl **speaking to him** is my sister.
- (4) This is the book **written in English**.
- (5) I was **running** near the river yesterday.
- (6) The window was **broken** by her.
- (7) He got **exciting** in this quarrel.
- (8) He became **known** by all of the members.
- (9) Summer is **gone**.
- (10) The game was very **exciting**.
- (11) They were **excited** in the game.
- (12) I failed to make myself **understood** in Japan.

太字がご存知分詞です。そして下線を引いた名詞が、分詞が形容詞とし

て説明している名詞、言い換えれば⑤でしたね。その名詞を限定用法で説明しているのが(1)~(4)、叙述用法で説明しているのが(5)~(10)です。

まず(1)と(2)、これは授業で扱ったのでいいですね。分詞が1語なので、名詞の前から説明しています。(3)と(4)は名詞の後ろから説明しています。なぜなら2語以上だからです。これらは限定用法なので、直接名詞にくっつけて説明をしている形です。

(5)と(6)です。進行形・受動態というのは飽くまで **be** 動詞が補語(C)に分詞をとった文だったのです。もちろん2語で **V** としてもいいですが、「**V** は **be** 動詞で、分詞が **C**」という真実は知っておくように言いましたよ。次の分子構文でも必要な考えだから、必ず理解してね。

(7)と(8)は **be** 動詞じゃない動詞が **C** に分詞をとったパターンです。 **get exciting** とか、 **become known** とかね。こんなのも「進行形(受動態)の **be** の部分に、他の動詞の意味が足されてる！」とか習うんですけど、そんなルールはありません。別に他の第2文型をとる動詞が分詞を **C** にとっただけだよ。 **He got angry.** は **He is angry.** に **get** の意味を足したんですか？ そんなことないよね。

(9)は過去分詞によくありがちな「受動」ではなく、「完了」の意味をもつ方です。今は過去分詞が「完了」の意味で使う場合には **have p.p.** の形にするようになったので、それ以外の過去分詞は全部「受動」で考えて差し支えないんだけど、 **is gone** や **is passed** の形だけは、慣用的に使うので、覚えておきましょう。

(10)と(11)は感情動詞から作った分詞ですね。その場合は意味に気を付けて、能動か受動を選ばねばならないという話でした。「そのゲームは面白い。」とするには「そのゲームは面白がらせる。」とします。ここで気を付けてほしいのは、 **exciting** は他動詞 **excite** の分詞なので㉖になっても、㉗が必要ですよね。でも今回はないですね。実はここには「人々を」という言葉が省略されているんです。 **The game was very exciting people.** って、じゃあなんで消えているんでしょうか？ だって、「面白がる」ものって、人間と一部の生き物だけでしょ？ だからわざわざ書かないんですね。英作文する時などには書かないように気を付けてくださいよ。また「彼らはそのゲームで興奮した。」というには「彼らはそのゲームで興奮させられた。」としなければ言えませんよね。これらの動詞を見たらそういうところに気を使ってくださいね。

(12)は慣用表現です。「私は日本で自分の考えを理解させるのに失敗した。」って。つまり、言葉が通じなかったとか、相手に英語を理解してもらえなかったとかで、コミュニケーションできなかったって、ことですね。

いいですか。

和訳

- (1) 吠えている犬は決して噛まない。
- (2) 盗まれた本はとても面白かった。
- (3) 彼に話しかけている女の子は私の妹です。
- (4) これは英語で書かれた本です。
- (5) 私は昨日、川のそばを走っていました。
- (6) その窓は彼女に割られました。
- (7) 彼は口論の中で興奮していきました。
- (8) 彼はそのメンバー全員に知られるようになった。
- (9) 夏が過ぎた。
- (10) そのゲームはとても面白い。
- (11) その試合で彼らは興奮した。
- (12) 私は日本で、自分の言いたいことを理解されなかった。

訳まできちんとできましたか。よし、それじゃあ今日はここまでにして
おこ。きちんと復習をして、準動詞の最後を締めくくりましょう。はい、
おしまい。

第5講 分詞構文の理解

● ここは準動詞のラストステージ、そして飛躍へのファーストステージ

ついに分詞構文まで来ました。上巻・中巻・下巻と読んできて、きちん
とここまで来た方は見事です。準動詞がきちんと理解できた皆さんに嬉しい
報告をしておく、ここまでできた皆さんは英文読解にも結果が出てき
ます。つまり英語の総合成績が上がってきます。それだけ準動詞は、文法
と読解双方に効果が見られます。そのためにもきちんとした理解が必要だ
ったんです。

それでは分詞構文にいきましょう。その前に今更な質問ですが、準動詞
ってなんでしたっけ？

生徒「文を崩して違う品詞に変えたやつ」

そうです。そうでしたね。まさか今頃わけわかんなくなってる人はいま
せんね。とにかく第0講に書いてあることがすべてです。

さて、なんで今頃そんな話をしたんでしょうか。不定詞と動名詞では、
崩れた文を見て、元の文を復元するところが肝でしたね。分詞は特に気をつ
けなくていいので、割と簡単に来ましたね。それでは分詞構文はどうす
るのか。こちらをご覧ください。

**分詞構文は文を崩す、そして崩された文を元に戻す、その
作業を行うだけ！**

先に言っておきます。分詞構文は、文を崩して準動詞にする作業と、
崩された文を復元して元の文に戻す作業を行うだけです。その一連の作業
をしてでてきたものをポロポロ答えるだけです。正しく崩して、正しく戻
せるならば分詞構文は恐るるに足りません。いいですね。

そもそも分詞構文は何を崩したもののなのか。これもしっかりと押さえま

すよ。

分詞構文は、＜接続詞 S+V＞という副詞節を崩してできる副詞のカタマリ。分詞構文を崩す(復元する)のに必要なのは、副詞節と、主節の V まででよい！

とにかく分詞構文の話は副詞節でほとんど完結します。ただ、主節の V を見ることもあるんだ。はい、いつでしょう？

生徒「え～(笑)わかりません。」

いや、やってる。やってる。準動詞で主節の動詞を打ち合わせしなきゃいけないのはなんでしたか？

生徒「あっ。完了のやつ？」

正解！よくできるようになりました。完了分詞構文にするかもしれないから、主節の V をチェックするんです。これに関しては後にして、とりあえず、文を崩し方のレシピを見ていきます。

分詞構文のつくりかた(文を崩すレシピ)

Because I was busy, I didn't go shopping.

接続詞 S1 V1 S2 V2

① 接続詞を消す。

I was busy, I didn't go shopping.

② S₁とS₂を比べて、同じなら消す(→普通の分詞構文)。同じじゃない場合はそのまま残す(→独立分詞構文)。

Was busy, I didn't go shopping.

③ このままだと意味不明の文なので、①②の処理をした証拠に、Vを分詞に変える。 SがVを「している(能動)」なら Ving、「されている(受動)」なら being p.p.の形にする。

Being busy, I didn't go shopping.

※このとき、being になった場合は省略するのが普通。よって受動の場合は p.p.だけになるし、動詞が be 動詞だった場合は分詞ごと無くなってしまう(今回の例)。以上で分詞構文は完成。

Busy, I didn't go shopping.

動詞を ing に変えて分詞構文を作る。その際 **Being** は省略される。という流れをおさえましょう。**Being** は省略されるので、レシピの最後みたいに、いきなり **Busy!** ってあっても文句を言っではいけないんですよ。まあ、さすがにここまで崩すと読みづらいので、being を残して **Being busy** くらいにするのが普通ですけどね。「文頭に立った being は省略されやすい、でも短すぎる場合は being を残す。」これくらいは覚えておくと便利です。さあ、今回は英文を崩して分詞構文にしていきながら、分詞構文を勉強していきましょう。

次の英文を崩して分詞構文にせよ。

- (1) As I have had a bad cold, I can't go to school today.
- (2) If the rock was seen from the distance, the rock looked like a human face.
- (3) As my mother was in the hospital, I visited her.
- (4) After he had finished this homework, he went to see the movies.
- (5) As he didn't like Mary, he didn't attend her party.

各文文頭から、カンマが入るところまでが接続詞 S+V が導いている副詞節です。これを崩すのが分詞構文です。それでは(1)から行きますよ。

まず接続詞 as。「～なので」という理由を表す接続詞です。まず、これを問答無用で消しますよ。そして副詞節の S と、主節の S と比べてみてください。どちらも I ですね。だから I も消します。そして、動詞は have なので、これを having に変えます。これで OK です。

~~As I~~ had a bad cold, I can't go to school today.

↓

Ⓥ

ⓐ

Having a bad cold, ~ (分詞構文)

分詞構文を作っても主節は変わりませんから、気にする必要はありませんね。これがいわゆる普通の分詞構文です。それでは(2)です。

まず接続詞を消します。今回は if 「もしも～なら」です。そして副詞節の S と主節の S とを比べます。やっぱり今回も同じなので the rock を消します。さて、それではお次は動詞を ing 形にしますが、動詞はどれですか？前講でお話ししたことをき・ち・ん・と考えたうえで、空気を読んで、答えてください(笑)。はい、動詞はどれですか？

生徒「was seen」

もう、びっくりするほど空気読めないねキミ(笑)。seen は過去分詞でしょ。分詞は形容詞だったよね。だから正確にはこいつは補語(C)だ。動詞は、どこですか。

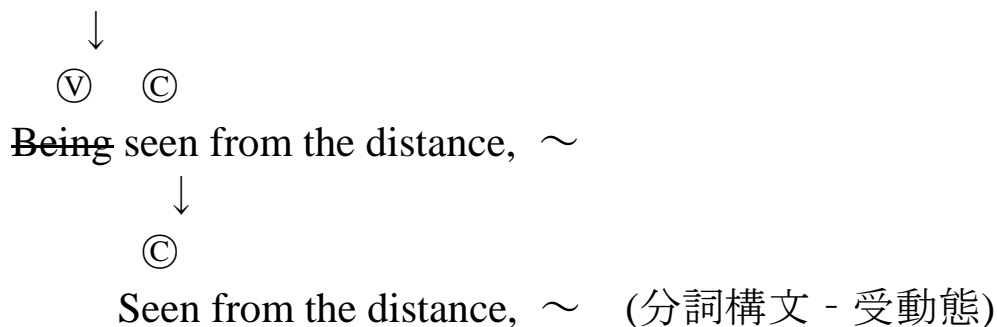
生徒「was(笑)」

もう本当お願いしますよ(笑)。いいですね。was だけが動詞です。じゃあこれを分詞構文にしますとどうなりますか？

生徒「being」

ですよ。だから Being seen from the distance が分詞構文です。た・だ・し、ここで終わらせてはいけません。レシピの下のほうに書いているように、Being は消すのが普通です。だから being seen でも悪くはないけど、seen にする方がいいでしょう。

If ~~the rock~~ was seen from the distance, the rock looked like a human face.



being は特に文頭に出たときには原則消してください。それでは(3)です。接続詞 as を消します。そして主語を比べてください。あら、今回は my mother と I ですから、S が違いますね。その場合は my mother を残してください。じゃないと、病院にいるのが私(I)だと読まれてしまいますからね。要は、⑤(意味上の主語)ですよ。この⑤がくつついた分詞構文のことを「独立分詞構文」と言います。前に行ったことがありましたか、この独立分詞構文という名前のせいで、多くの受験生が苦手意識を持っている分野なんだけど、要は意味上の主語がついているだけ。わかりますよね。全然難しくない。何の問題もない。そして、動詞は was なので、being にします。じゃあ省略ですか？まあ、ダメではないけど、今回は my

mother があって、文頭には立っていないので、省略する必要はありませんね。

As my mother was in the hospital, I visited her.

↓

⑤

⑤

My mother being in the hospital, ～ (独立分詞構文)

⑤と S が違う場合は⑤を残す。これを独立分詞構文と言う。これだけ。準動詞においては⑤は基本書かないという原則はここでも同じでございますよ。書かなきゃいけない場合は書くだけだったね。それでは(4)です。

同じように、接続詞とる、そして主語を比べてどちらも he なので取る。んで、今回は finish が動詞なので finishing…としたいところなんだけど、ここで完了準動詞のお勉強です。例によって、⑤と V の間に時間差があるばあいは⑤を完了準動詞に変えます。今回はそのパターンです。見てください。「宿題を終えた」という動作と「彼は映画に行った」という動作は同時に起こってませんよね。「宿題→映画」でしょう。この場合は完了準動詞、今回は完了分詞構文に変えます。完了分詞構文は having p.p. で表します。だから英文はこうなります。

~~After he~~ had finished this homework, he went to see the movies.

↓

⑤

⑤

⑤

having finished this homework, ～ (完了分詞構文)

最後、(5)です。同じように接続詞と主語を消します。すると今度は didn't like が V ですね(正確には助動詞 did と動詞 like ですが)。さて困りました。否定文で分詞構文を作るにはどうしたらいいのでしょうか。…困りませんよね。簡単です。分詞構文の ing の前に not をつけるだけですね。はい、おしまい。

As he didn't like Mary, he didn't attend her party.

↓

Not liking Mary, ～ (分詞構文の否定)

さて、とりあえず分詞構文の作り方は一通りわかりましたね。それでは訳し方です。

分詞構文は、副詞節を崩した表現なので、訳すときも「～して」「～してて」「～したら」「～しながら」など簡単に訳すだけでよい！

例えば皆さんは朝起きた時の様子をどんなふうに話しますか？教室で朝あったことを話しますよね。「私が朝起きた**とき**、母親がご飯を作っていた。私は眠たかった**から**、顔を洗いに言った。私は激怒した。洗面所で父が私のパンツを拾っていた**からである**。私は大変立腹した。ご飯を食べた**後**、私は学校に行ったのであった。」って女子トークしてますか？

そんな気持ち悪い女子はいません。いや、男子も同じです(笑)。なんて言いますか。

「私が朝起き**たら**～、ママがご飯作ってたのね。アタシ眠**くて**～顔洗いに行って、そしたらジジイがアタシのパンツ拾**ってて**、マジギレ～…」

すいません止めます(笑)。下手ですみません(笑)。

…ええと何を言いたかったかというと、私たちも日常会話では副詞節をいちいち言ったりしないんですよ。崩してほんわかと言ってます。…わかってくれた？うん、それが言いたかったの(笑)。それから分詞構文というのは、動詞の動作の様子を詳しく説明するためのものですから、「～しててVした」というように訳してくださいね。接続詞のニュアンスをきちんと出すように先生に教わった人がいるかもしれませんが、訳に気を付けなければいけない和訳問題ならまだしも、普段読む場合にはそんなに気を付ける必要はありません。なんでって、ネイティブは接続詞をいちいち言わないために分詞構文を作ったんです。それをいちいち元に戻して読んでたら意味ないでしょ。ね。もちろん接続詞が簡単に思い浮かぶような英文なら元に戻してもいいですがね。

和訳

- (1) 私は風邪をひいていて、今日学校を休んだ。
(私は風邪をひいていたので、今日学校を休んだ。)
- (2) この角度から見られると、その岩は人の顔のように見える。
(もしもこの角度から見た場合、その岩は人の顔のように見える。)
(この角度から見たとき、その岩は人の顔のように見える。)
- (3) 母が入院していたので、私はお見舞いに行った。
- (4) その宿題を終えて、私は映画に行った。
(その宿題をやった後で、私は映画に行った。)
- (5) 彼はメアリーが嫌いで、パーティに行かなかった。
(彼はメアリーが嫌いだったので、パーティに行かなかった。)

まあ、訳はこんなもんです。接続詞のニュアンスを出したのが下のカッコの方です。(2)を見るとカッコが2つありますね。何が言いたいかというと、接続詞を if で訳しても when で訳しても意味が通るということです。ね、曖昧なんですよ。分詞構文っていうのは。フワフワしているんで、訳もフワフワいこうということです。また(3)はフワフワ訳した方が変ですね。もちろん「お母さんが入院してて、お見舞いに行った。」でも間違いじゃないですが、「～ので」と as の訳を戻した方が良かったのでそちらで訳しました。まあ、場合によりけりです。

さて、次は実際の設問を見ながら、分詞構文を復元して、解答する手順を見ていきますよ。じゃあ、次の問題を見てください。

次の選択肢から空所に入るもっとも適切なものを選び、記号で答えよ。

- (1) () in a very difficult situation, the doctor never had any rest.
(a) Work (b) Working (c) Worked (d) To work
- (2) () a fine day yesterday, I took my son fishing.
(a) Being (b) Having been (c) It being (d) It was
- (3) (), he decided never to speak her again.
(a) Deeply shocking (b) Deeply shocked
(c) Having deeply shocked (d) Having deeply shocking
- (4) () all his money, he could not help giving up his plan.
(a) Having lost (b) lost (c) losing (d) lose

さあ、じゃあ行きますよ。(1)。まず分詞構文の問題だと気付くところからいきます。よく見てください。2つの英文がカンマだけで繋がってますね。それはダメです。はい、これを見て。

英文はカンマだけで繋がらない！英文2つは必ず接続詞か関係詞で繋ぐか、片方を崩して準動詞にする！

思い出してくださいね。そもそもなんで準動詞があるのかを(笑)。こんな風にまず2つの英文がカンマで繋がっているような状況に出くわして、選択肢を見ると分詞がある。そうしたらシメた！と思ってください。分詞構文の出番です。(1)から行きましょう。

まず(a)は即消去でしょう。Work と had で動詞が2つになっちゃうからね。(d)は分詞構文の選択肢にはよくあるんですが、不定詞の副詞用法です。一応「目的」と「条件」の意味を当てはめてみますが、変ですよ。「困難な労働環境で働くために(働くには)、その医者は決して休まない。」って。結局残るのは現在分詞か過去分詞。そうしたら分詞構文だと判断して、元の文を復元します。じゃあ、これを見てください。とりあえず、カッコに

は work という動詞の準動詞が入るということはわかりました。

㊦ (work) in a very difficult situation, the doctor never had any rest.

まずは接続詞があったことはわかりますね。だけど、接続詞が何かを考える必要はありません。だから㊦とでもしておきましょう。その後見ると、いきなり動詞 work が来ています。S はどこにいったの？…分詞構文を作る過程で主節の S と同じだから消えたんだね。ということで、the doctor を戻します。

㊦ the doctor (work) in a very difficult situation, the doctor never had any rest.
医者 働く

そこで考える。「医者~~は~~働く(working)」のか、「医者~~は~~働かれる(worked)」のか。…もちろん working ですね。答えは(b)です。そのまま(2)へ行こう。

㊦ (be) a fine day yesterday, I took my son fishing.

(d)It was は無理。動詞 was と took が被るからね。後は分詞だからとりあえず上のように戻します。そして S がやっぱりありません。…から、主語の I を戻します。

㊦ I (be) a fine day yesterday, I took my son fishing.
私 である

さて、それで解決かと思いませんか？ちょっと訳してみますよ。「私はいい天気～♪」

私はサザエさんか！！

いや、サザエさんも違いますね(笑)。「私はいい天気」なわけないでしょ。意味がおかしい。じゃあどうしますか。(c)It being にして、独立分詞構文にしようと、こうなるわけです。この it は天候の it です。「天候が良かった」という意味ですね。(a)(b)だと I を主語にすることになってしまうので、×でした。はい、(3)です。どんどん行きましょう。

まず、選択肢が全部分詞なので、さっそく文を復元していきましょう。

接 (shock), he decided never to speak her again.

やることは同じです。S がないので、he を戻します。deeply は共通なので、カッコの外に書いておきますね。

接 he deeply(shock), he decided never to speak her again.
彼 ショックを与える

さて、今度はどちらですか。彼はショックを与えたのか、与えられたのか。もちろん与えられたんでしょう。だから文を崩す過程はこうなりますね。

接 he deeply (shock), he decided never to speak her again.

↓

接 he deeply was shocked, ～

↓

⑤

Deeply ~~being~~ shocked, ～

(a)(d)はこの時点で消去です。(b)(c)が残ります。つまり、普通の分詞構文か完了分詞構文かどちらかということです。そこで⑤と V の時間を比べますが、「深くショックを受けた」時と「彼女と二度と話さないと決めた」のはほぼ同時ですよ。無理に順番を表す必要はない。だから今回は(b)が正解です。先生、今回は独立分詞構文を疑わなくていいんですかって？だって選択肢にないじゃないですか。選択肢の中の可能性だけを追求すればいいんです。わかったね。それでは最後は(4)です。

(d)は動詞 leave なので×です。(a)～(c)は分詞なので、元の形を復元します。(c)は過去形じゃないかって？いいえ、過去分詞の可能性もあります。ここで消すのは早計です。

接 (lose) all his money, he could not help giving up his plan.

やっぱり同じように主語を戻して、

接 he (lose) all his money, he could not help giving up his plan.

彼は「失う」んです。後ろに目的語の **all his money** があることからわかりますね。受動態だったら後ろにこんな名詞があるのは変ですし。だから(b)はやっぱりダメです。過去分詞を使うのはおかしい。(a)か(c)ですが、やはり普通の分詞構文か完了分詞構文かというところですね。「彼がお金を失う」のと「彼が計画を諦めざるを得なかった」というのはどうですか？「失う→諦める」という時間の流れがありますね。だから今回は完了分詞構文の形にします。(a) **Having lost** が正解です。え？これは受動じゃないかって？いいえ、受動は **Having been lost** です。be 動詞の過去分詞が入っています。いつも言ってることですが、ここまでしっかりと。いいね。

● 分詞構文の慣用表現

さて、分詞構文も早くも終わりが近づいてきました。

generally speaking	「一般的に言うと」
all things considered	「すべてを考慮すると」
compared with ~	「～と比較すると」
considering ~	「～を考えると」
judging from ~	「～から判断すると」
speaking[talking] of ~	「～について言うと」
weather permitting	「天気がよければ」
frankly speaking	「率直に言うと」
strictly speaking	「厳密に言うと」
such being the case	「こういった事情なので」
taking ~ into consideration	「～を考慮に入れると」

例によって、覚えるだけです。ひたすら、声に出してくださいね。ちなみに **generally speaking** のような慣用表現は⑤と S が違うのに、意味上の主語を置いて独立分詞構文にしたりはしません。なのでいちいち気にせずに覚えてしまってください。

● 接続詞＋分詞構文

さあ、分詞構文も終わりますよ。まずは簡単な方からやっちゃいましょう。分詞構文って、接続詞を消しますよね。でも消してしまうと、当たり前ですが、接続詞がわかりにくくなってしまうですね。そのため、たまに接続詞だけ残したりします。それに意味があるのかどうかはわからないが(笑)。まあ、現実に出るわけですから知っていてください。

When he speaks English, he rarely makes mistakes.

これを崩すと普通こうなります。

Speaking English, he rarely makes mistakes.

ところが、これもありだということです。

When speaking English, he rarely makes mistakes.

これを「接続詞＋分詞構文」といいます。接続詞のところで、接続詞の後ろの S+be の省略と習うこともありますが、ほとんど同じです。

● 付帯状況の with

それでは最後に、付帯状況の with の話をして終わりますよ。学校では分詞構文のところで習うんだけど、なんでここで習うのかわからないって人が多いですね。でもこれ、実は立派な分詞構文なんです。じゃあ、これを見てください。

~~While~~ her legs was crossed, she talked with his friend.

↓

Her legs was crossed, she talked with his friend.

↓

Her legs ~~being~~ crossed, she talked with his friend.

↓

Her legs crossed, she talked with his friend. = 独立分詞構文

ここまではいいでしょう。「先生なんですか、ただの独立分詞構文じゃないですか」という人も多いはずですよ。そうなんです。普通の独立分詞構文なんです。これに **with** をくっつけたのが付帯状況の **with** です。

With her legs crossed, She talked with his friend. = 付帯状況の **with**

なんでそんなものつけるのか？それは「～しながら」という意味を強く出したいからです。さっきの「接続詞＋分詞構文」と原理は同じなんです。要は接続詞を消してしまったら、わかりづらいので、**with** を「～しながら」と呼んでくださいというマークとして置いたんです。だからこの **with** を前置詞として読む必要はありません。ただのマークですからね。独立分詞構文で消した接続詞をわかりやすくする場合はこの **with** を使います。

生徒「先生、ここを接続詞＋分詞構文で書いてもいいですか？」

いいですよ、そうなるとどうなると思う？元の文に戻ります(笑)。

While her legs was crossed, she talked with his friend.

最後の最後にいじわる言ってごめんなさい(笑)。きちんと理解されましたでしょうか。しっかりとこの『準動詞講義の実況中継(上)(中)(下)』を読んで、準動詞をマスターしてくださいね。そうすれば文法問題でも読解問題でも、確実にワンランク・ツーランクのアップが望めます。

それでは今日はここまでにしましょう。お疲れ様。これからも頑張ってください。

(完)

